

令和五年度 滋賀県立河瀬高等学校特色選抜問題 小論文

受検番号

注意

- 一 答えは、全て解答用紙の決められた欄に書き入れなさい。
- 二 漢字は楷書、仮名遣いは現代仮名遣いで書きなさい。
- 三 原稿用紙の正しい使い方にしたがって書きなさい。
- 四 問題用紙は一枚です。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

アート思考が「なぜあなたに必要なのか」について、お話ししておきたいと思います。  
わかりやすさのために、「美術」とはいわば正反対の教科である「数学」と対比しながら説明させていただきます。  
あらかじめお断りしておきますが、私は「数学」が不要だと主張するつもりはありません。あくまでもわかりやすくするために引き合いに出すだけです。どうかあしからず……。

まず、数学には「太陽」のように明確で唯一の答えが存在しています。  
たとえば、「 $1+1=2$ 」が正しいことは、すではつきりしています。個人が勝手に「いや、ひよっとすると『 $1+1=5$ 』なのかも……」などと疑う余地はどこにもありません。  
まだ答えの見つかっていない事柄は山ほどありますが、必ずどこかに揺るぎない1つの答えが存在するというのが、この教科の基本的なルールです。数学はこうした「正解(=太陽)」を、見つける、能力を養います。

一方、美術(アート)は数学とはまったく違ってきます。  
数学が「太陽」を扱うのだとすれば、美術が扱うのは「雲」です。太陽はいつもそこにありますが、空に浮かぶ雲はつねに形を変え、一定の場所に留まることもありません。アーティストが探究の末に導き出す「自分なりの答え」は、そもそも形が定まっておらず、見る人や時が異なれば、いかようにも変化します。  
子どもは空に浮かぶ雲を飽きることなく眺めながら、「ゾウがいるよ」「あれ？ 巨人にも見える」「あ、トリになった！」などと「自分なりの答え」をつくり続けますよね。教科としての「美術」の本来の目的は、このように「自分なりの答え(=雲)」を「つくる」能力を育むことなのです。

これまでの世界で圧倒的に支持されてきたのは、①前者の能力でした。「数学」は多くの場合、入試科目に入りますが、ごく一部の学科を除けば、受験生に「美術」を課するような学校はありません。

しかし、「どうやらこれだけではまずいことになるぞ……」ということに世の中が気づきはじめています。  
この背景になっているのが、いわゆる「VUCAワールド」と形容される現代社会の潮流でしょう。  
VUCAとは「Volatility=変動」「Uncertainty=不確実」「Complexity=複雑」「Ambiguity=曖昧」の4つの語の頭文字を取った造語で、あらゆる変化の幅も速さも方向もバラバラで、世界の見通しがきかなくなったということを意味しています。

「『敷かれたレールに従っていけば成功できる』という常識が通用しない世界になった」という警句は、以前からずいぶんといろいろなところで聞かれるようになりました。だからこそ、ここ10年くらいは「時代の変化にいち早く対応しながら、『新しい正解』を見つけよう」というのが、お決まりごとのように語られてきたのです。

しかし、②現代のようなVUCAの時代にあっては、もはやこのやり方すら役に立ちません。どんなに変化にすばやく食らいつこうと思っても、もはや追いつけないほどに世の中の変動が激しくなりましたからです。  
たった1つのテクノロジーが、全世界の枠組みをまるごと変えてしまうようなことも、もはや珍しくありません。  
すえなが めきほ  
(末永 幸歩 「『自分だけの答え』が見つかる 13歳からのアート思考」による。)

(注) 警句……短い形で、物の真理を鋭くついた言葉

問一 傍線部①「前者の能力」とはどのような能力か、五〇字以内で説明しなさい。

問二 傍線部②「現代のようなVUCAの時代」に必要な力はそのような力だと思いませんか。  
あなた自身の考えを述べなさい。ただし、次の条件に従うこと。

条件

- (1) 本文から読み取れる内容をふまえること。
- (2) 具体例を示すこと。
- (3) 二四〇字以上三〇〇字以内で述べること。